

ICT 建設機械が新時代を創る!

ICT建設機械の3つのメリット

正確性向上

経験の浅いオペレーターでも、設計図のとおり正確な工事が可能。

生産性向上

確認作業が減り、作業時間が短縮できる。少人数でも工事が可能。

安全性向上

工事の途中で、測量などがいないため、安全な工事が可能。



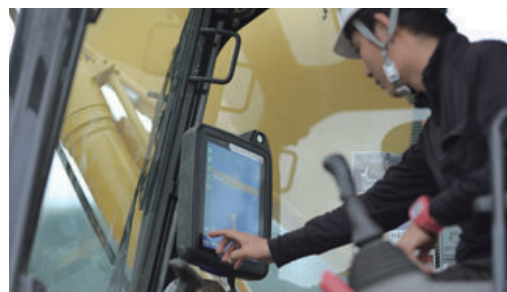
従来の方



ICT施工



皆さんは、ICT建設機械を知っていますか？ ICTとは、デジタル化された情報の通信技術。この技術を取り入れた建設機械のことをICT建設機械といい、土木工事の分野で活躍するブルドーザーやパワーショベルなどの機種があります。工事の効率や正確さ、安全性などが大幅に向上するといわれるICT建設機械を導入する企業は年々増加しており、日本の建設業界を救う存在として注目はますます高まっています。



今回は、県内の建設業界でも先駆けてICT建設機械を導入された岡田建設株式会社のお話をうかがいました。

ICT建設機械 (パワーショベル) を取り入れたきっかけは？
一番は人手不足ですね。人手を補う方法はないかと考えを巡らせるなかで思いついたのがICT建設機械でした。当社の若い技術者たちのために、最新の技術を取り入れたいという思いもありました。

ICT建設機械導入のメリットを教えてください

従来の土木工事では、段階ごとに測量を行い、丁張り(ちようはり)という目印を打つ作業が必要となります。それがICT建設機械なら、機械がGPSを用いて測量を行い正確なデータを出してくれるので、2人がかりで行っていた測量の作業を省くことができます。

ICT建設機械の導入により工事期間が短くなり、燃料代の削減や省力化につながりました。

また、3Dで測量をして、どのくらい掘ればいいのかなどがデータ化されるので高精度の工事が可能で、機械がしっかりナビゲートしてくれるので、経験の浅い人でも活躍できる機会が増えると思います。

建設機械の紹介



【ブルドーザー】

トラクターの前面にブレードと呼ばれる部品を装備させたもので、土砂をすくって運ぶ作業に適した建設機械。



【パワーショベル】

先端のバケットで土砂を掘ったり、積み込んだりする建設機械。



【スパイダー(4輪多関節型作業機械)】

先端にタイヤが付いた脚がそれぞれ独立して動き、通常のパワーショベルが入れないデコボコした地形でも安定した姿勢で安全に作業できる。災害復旧現場など様々な場面で活躍できる建設機械。

